

施釉タイルコーティング標準作業要領書

施工対象

1. タイルの表面に釉薬が施されている**施釉タイル**。
2. タイルの表面に釉薬が施されていない**無釉タイル**であるが、**水が浸透しないかほとんど浸透しないタイル**。

水の浸透可否については、乾いたタイルに水をかけた時に、タイル表面の色が濡れ色に変化しないかもしくはごく僅かしか変化しない場合には、水は浸透しないもしくは僅かしか浸透しないものと判断する。

3. **モルタル目地**

シリコンシーラー目地には適用不可。

；シリコンシーラーの柔軟性によりパ-ミエトの塗膜にクラック・剥離が発生します。

施工後の外観

タイル表面 : 光沢あるクリア塗膜(色は無処理とほとんど変わらず)

モルタル目地 : 濡れ色(水が浸透して黒っぽくなった色合い)、但し、白モルタルの場合は変わらず。

使用する製品

無溶剤無機系封孔剤 パ-ミエト HS-200プライマー

無溶剤無機系封孔剤 パ-ミエト HS-200クリアー

製品性状

	HS-200プライマー	HS-200クリアー	
容姿	1液	1液	
荷姿	14Kg/缶、3Kg/缶、400g/缶	18Kg/缶、4Kg/缶、500g/缶	
色相	クリアー	クリアー	
比重 23℃	0.81	1.09	
粘度 mPa·s 23℃	2.4	8.5	
不揮発分	1.5	78.4	
指触硬化時間 23℃ * 50%RH	0.5 Hr	2 Hr	
引火点 ℃	11.7	55.1	
適用法令	消防法 安衛法通知対象物質 (57条の2第1項) PRTR法指定化学物質	第4類アルコール類 アルコキシラン イソプロパノール 対象外	第4類第2石油類(非水溶性) アルコキシラン 対象外

工法の特長

1. パ-ミエトHS-200は大気中の水分と反応して硬化し、形成される樹脂は無機系であるため、**耐候性(耐紫外線性)、耐熱性、防汚性に優れています**。
 - ・耐紫外線性に優れているので塗膜のチョーキングは起こりません。
 - ・塗膜は不燃性 ; 建築基準法第68条の26第1項の規定に基づき、国土交通省より不燃材料の認定(NM-2750)を受けています。
 - ・汚れが落ちやすい ; 土木用防汚材料評価促進試験(財団法人土木研究センター)に合格しています。
2. タイルおよびモルタル目地の微細孔に浸透した後、**3次元の無機系樹脂を形成して硬化し、微細孔を塞ぐ**ので、白華(エフロレッセンス)の防止や汚れを防止することができます。

施工基準

項目	内容		項目	内容	
適用温度	5~50℃		塗布方法	刷毛、ローラー、スプレー	
機材洗浄用シンナー	パ-ミエト用シンナー		製品のシンナー希釈	希釈厳禁	
塗布仕様					
工程	使用製品	理論塗布量 g/m ²	硬化後塗膜厚さ μm	塗布間隔 Hr	
素地調整	基材表面・微細孔にある付着物の除去および乾燥				
下塗り	HS-200プライマー	30	-		
上塗り	HS-200クリアー	50-100	25-50	2-5	

理論塗布量は基材への付着量を意味していますので、実際の使用量は上記値に作業時ロスを織り込んで下さい。

施工上の注意事項

1. 水が浸透する無釉タイルへの施工も可能です。
但し、タイル外観が濡れ色に変わることをご承知おき下さい。
2. パーミットは、大気中の水分を吸収して硬化が進みますので、開缶後、必要量を取り出した後は速やかに密封し、冷所にて保管して下さい。
3. 開缶した容器のパーミット表面には薄い膜が張ることがありますが、この膜は健全な塗膜の形成に支障をきたしますので取り除いてお使い下さい。また工具類は専用のシナーで洗浄してお使い下さい。
夏場のような高温高湿度において、空気中の水分がパーミットに吸収されて急速に硬化反応が起こった時に薄膜が発生します。
4. パーミットは、塗布及び硬化時にアルコールを生成揮発させますので、密閉室内での作業時には有機溶剤取り扱いに準拠してお取り扱い下さい。
5. パーミットは、シナーで希釈することなくお使い下さい。
シナーで希釈しますと、細孔を塞ぐことができず、所定の性能を発現できなくなります。
6. 被塗布面の油、じんあい、その他の有害な付着物は除去して下さい。
 - ・ 油の残存は塗膜剥離の原因となりますので、酸性もしくはアルカリ洗浄液で丹念に洗浄し、その後十分に水洗して下さい。
洗浄作業が間違いなく実施されたかどうかの判定は、酸性/アルカリ洗浄液で洗浄後適切な間隔でpH試験紙により酸/アルカリの存在をチェックし、更に水洗後にpH試験紙で中性に変わっていることをチェックすることが有効です。
 - ・ 白華が発生している被塗布面については、酸性洗浄液で丹念に洗浄して白華結晶 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ を除去し、その後十分に水洗して下さい。
白華が発生している場合は、被塗布面の表面だけでなく、表層の微細孔を塞いでいる $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 結晶を除去する必要があります。もし微細孔の結晶が除去されないとパーミットが微細孔へ浸透できなくなり、白華を抑えることはできません。
モルタル目地に白華が発生している場合は、目地モルタルを電動工具等で1-2mm除去し、新たなモルタルで修復することにより、モルタル表層に微細孔を形成させる方法も有効です。
7. 水洗後の乾燥は十分に行ってください。水分の残存は塗膜剥離の原因となります。
乾燥しているかどうかは、ペーパーウェスブランチ等で拭いてペーパーの色変化なしを観察する、コンクリートが乾燥色(白っぽい)、水分計測定により5%以下となっている等により判定してください。
一般的には、水洗後、常温下で24Hr乾燥させれば、乾燥は十分です。
8. 上塗りは、下塗りのプライマー塗布後2~3Hr以降に塗布して下さい。
タイル種によっては、プライマー塗布2Hr後上塗り塗布しても部分的なハジキが起こることがありますので注意して下さい。
もしハジキが発生した場合は時間を置いて再塗布して下さい。
5Hr以降の塗布も可能ですが、塗布間隔が長く、特に夜間を経過すると結露等付着を阻害するものが付着する恐れがありますので、プライマー塗布2~3Hr後の上塗りを推奨します。
9. パーミットは、刷毛・ローラー等を用いて、均一になるように塗布してください。上塗りの理論塗布量以上の厚塗りは、塗膜の白濁化・クラック・剥離の原因となりますので避けて下さい。
タイル表面に塗布したパーミットがだれて、タイルの下部・モルタル目地等に液溜りを作らないように、塗布直後に確認し、刷毛等で平滑化して下さい。
10. 塗布量は、塗膜の光沢の程度により、ご希望に応じてお決め下さい。
塗付は $50\text{g}/\text{m}^2$ 程度で光沢感は十分だと思いますが、それ以上を塗布される場合は1回目塗布2Hr以降に再塗布して下さい。1回で $50\text{g}/\text{m}^2$ 程度以上塗布すると液割れます。
11. 指触硬化完了までは、埃及び塵が付着しやすい状態ですので、シート等で養生を行ってください。
12. パーミットの硬化は、温度湿度に大きく影響され、低温低湿度では硬化反応が極端に低下しますので、 5°C 以下での使用は避けて下さい。また、塗布直後に零下になりますと氷結等により塗膜形成が影響されますので防寒対策を行ってください。
湿度は、 20°C において20%RH以上に相当する絶対湿度であることを確認して塗布作業を行ってください。
13. 塗布中及び直後に雨露にさらされますと健全な塗膜が形成されない恐れがありますので、指触硬化完了までは雨露が当たらないように養生を行ってください。
14. 常温環境下で鉛筆硬度HBを得るには約1ヶ月近くかかります。それ迄は塗布面への直接荷重、衝撃は傷の原因となりますのでご注意願います。
もし塗膜の一部に傷がついた時には、塗膜面を#80-120サンドペーパーで丹念に目粗し後(縦横10回程度の研磨が望ましい)、再塗布して下さい。